

これからの磐城 その5

磐城高校は、福島県の県立高等学校改革計画の前期実施計画が発表され、磐城高校は、その中で、進学指導拠点校に位置づけられましたが、2024年度以降、これからの少子化の影響で、クラス数は、6クラスに減じられる可能性があります。

この年は、まさに2022年度から新学習指導要領が実施され年度進行して3年生まで完成する年度であり、大学共通テストの中身が一新される年でもあります。今のところ、新しい制度の大学共通テストも、2024年度を目途に国語や数学のほかに理科や地歴公民においても、記述式テストが導入される可能性が示唆されており、新しい教科科目として、情報のプログラミングも実施されるということがいたるところでうわさされております。

現在、高校で行われている教科「情報」は、「社会と情報」と「情報の科学」のどちらかを選択する選択必修科目です。プログラミングは主に後者に含まれており、プログラミングを行わない生徒が多くを占めていました。2022年からは新しい学習指導要領に沿って、全員必修の「情報Ⅰ」と選択科目の「情報Ⅱ」に再編されどちらにもプログラミングが含まれるようになり、高校生全員がプログラミングを学ぶこととなります。ということ为背景にして、教科情報が必修となり、プログラミングが共通テストに問われると予測されるのです。

このことから、今現在、中学1年生以下のお子さんから、大きな大学入学共通テストの新しいバージョン変化が起こると考えます。小学生からプログラミングに慣れておく必要があります。

英語のヒアリングも同様です。ネイティブの発音が聞き取れる能力を養う必要があります。

そのことを背景として、人事作業も進めております。英語力とその背景にある国語力の育成、および情報のプログラミングを的確に教えることのできる人材発掘と磐城高校への人事異動も考えなければなりません。

各競技における今後10年後の指導者の育成と新しい人材登用も大きな端境期を迎えております。

人が人を作るのであります。人を呼ぶことが人を作ることとなります。その流れに沿って、新しい磐城の人材が育ち、次の磐城高校を作ると考えております。

そのためにも、磐城高校が中高一貫化することは、とても大切なことであると心から願っております。